

焼尻島



第6号
平成26年7月29日
地域おこし協力隊・奥野



祝詞奏上を終え、神輿の宮出しへ

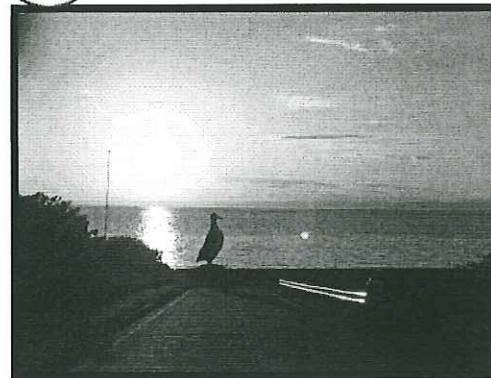
6月27日(金)、28日(土)、島の伝統行事・厳島神社祭りが開催され、神社役員の皆様を中心に漁業の安全と豊漁を祈りました。祭りは準備こそ和やかに進んだものの、いざ時間になると荘厳な雰囲気へ一変。虫や鳥の鳴き声が静かに響くなか、神主さんが祝詞を読み上げました。

トラックに乗った神輿はそのまま島内を巡幸。東浜に到着後は、神輿は漁船に乗せられ、さらに島の外周を一周しました。

大漁旗に彩られた船はなんとも圧巻！伝統ある祭事ならではの、荘厳な雰囲気を醸し出していました。



焼尻島イイところ「表情豊かな朝焼け」



特に島の漁師さんにとっては見慣れた景色でしょう。

しかし、漁師でもなければ島育ちでもない僕は思わず見入ってしまいました。それが、島の朝焼けの風景です。羽幌町と言えば、日本海側の水平線がはっきり見えることもあり、夕陽が名物ですよね。僕も、焼尻島に引っ越した当初は夕陽ばかり注目していました。

.....が、最近ハッとさせられたのは、「朝日、朝焼けもすご〜〜〜く味わい深い」ということ！もちろん、夕焼けも素敵です。けれど、夕焼けはどこか寂しい。一方朝焼けは、どこかさっぱりと涼しくて、「これから明るくなっていく！」という雰囲気がすごいです。この清々しさは都会では絶対に味わえません。季節によって、時間によって、場所によって、常に表情を変えてくれるのもグッときます。

ただ、僕は早起きが苦手.....。頑張って起きなきゃ(汗)



賞金なんと30万円！宝探し開催中！



7月21日より、「宝島〜焼尻の財宝伝説〜」が行われています！島を舞台に謎解きをする同イベント、テレビや新聞でも話題となり、注目を集めています。

初日は約50名の参加がありました。以降、平日でも、地図を片手に島を歩きまわる観光客の姿を見かけます。謎解きの難易度は「初級」から「極上」までの4段階。難しい謎を解くほど、賞金・景品が当たる確率も高まります。

注目は何と言っても1名に当たる賞金30万円！8月20日まで開催予定です。



焼尻島の花「アジサイ」

7月はアジサイの季節ですね。

観光で訪れた方が写真を撮っていましたが、「すごくキレイな青だね！」と驚いていました。

一般に、アジサイは「酸性土壌だと青色」、「アルカリ性土壌だと赤色」と言われています。日本は基本的に酸性土壌なので、青色のアジサイはそれほど珍しいものではありません。しかし、焼尻のアジサイほど濃い青はなかなかお目に掛かれないようにも思います。



小田商店近くのアジサイ



ナメクジが喘息に効く!?

突然ですが、我が家では雨の翌日などにナメクジが大量発生します。

焼尻島にとって、ナメクジはそれほど珍しいものではないと思います。しかし、内地育ちの僕にとっては不慣れな存在。
◇最近では毎日室内で見かけるので、踏まないように神経を使う日々です。

いつも「気持ち悪いなあ」と思いつつ、ティッシュで捕まえて捨てていたのですが、ある日、島のおばあちゃんから「昔は喘息の薬になったんだ」と聞き驚きました。触れることすらおっくうに感じていたナメクジが、そんな効能を備えているなんて!

喘息の他にも、イボ、声がれ、痔、小児の疳、心臓病、脱肛、丹毒、乳房炎、肺炎、腫れ物、扁桃炎、夜尿症、リウマチ、淋病、肋膜炎に効果があるとのこと。いやー、ナメクジを見直しました! 昔の人々の知恵は凄いなあと感心するばかりです。

ところが、調べてみると、ナメクジには広東住血線虫という寄生虫が潜んでいる可能性があるそうで、これに感染すると、最悪の場合死に至る可能性があるとか。加熱や乾燥など、適切に処理されたものであれば、様々な効果を期待できるそうですが、生食するには要注意とのこと! 良薬は口に苦し!



おっくん島旅記録 No.1 「小笠原諸島のお見送り」

焼尻島に住むまでに、日本全国色々な島を旅してきました。思い出話を綴ります。

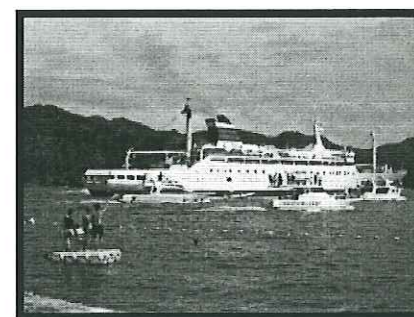
学生時代、一番憧れの強かった島が小笠原諸島でした。東京・竹芝桟橋から南へ1,000km、1週間にたった1往復の船に乗るうえ、片道25時間30分かかるといふ、トンデモナイ島です。(もちろん、空港はありません)

小笠原諸島は父島と母島の2つの有人島といくつかの無人島から成ります。絶海の孤島ゆえの独自の生態系に恵まれ、2011年には世界自然遺産に登録されました。沖縄本島と同緯度なので、いわゆる常夏の島です。独自の生態系を持つ草花、動物はもちろん、海にはイルカやクジラも見られ、訪れる人を楽しませます。

さて、上でも述べたように、定期船は1週間に1往復、さらに片道25時間30分かかるといふ島です。船は父島に到着すると、そのまま3日間停泊します。つまり、お客さんは必然的に島で3泊以上宿泊する必要があるということ。そんな特殊な観光地だからか、お客さん同士はすぐに仲良くなってしまいます。

そうして、船が島を出る時には、たくさんの観光船が定期船「おがさわら丸」を見送ります。これがまた圧巻! まるで大型回遊魚についていく小魚のようです! 観光客からすると、これが本当に感動的でした。

島を訪れる観光客にとって、お見送りほどジーンとくるものはないかもしれません。



編集後記

行事が白白押し、6月を終えました。僕も微かながらに色々お平伝いもさせと頂きました。既存の行事を存続させることの大変さを改めて痛感しました。もっとたくさんの方とつながるよう努めていきたいと思っております。

インターネットでも焼尻島の情報を発信中! (^_^)

ブログ 『関西出身の協力隊員が焼尻島でなんやかんや頑張っちゃいますブログ』
(<http://www.iju-join.jp/chiiokoshi/blog/4264/>)
羽幌町のホームページから見るができます!

ツイッター 焼尻なう @yagishiriTV
フェイスブック 焼尻なう ~焼尻島情報館~

※「見かたがわからない!」という人がいらっしやいましたら、ぜひお声掛けください! ご案内します!